

セカンドオピニオンについて その1

セカンドオピニオンとは

セカンドオピニオンは、患者さんが納得してご自身の治療方法を選べるように、他の医療機関の医師に、病気の診断や治療方針について求める、「第2の意見」のことを指します。担当医の診断や治療法に疑問や不安があるときに、別の医師がどのように考え、判断するかを知ること、患者さん自身が病気や治療への理解を深め、ご自身の決断を支援する仕組みです。

特にがんや進行性の難病など、治療方法が高度で、長期化する病気の場合には患者さんの悩みも多くなります。セカンドオピニオンは、こうした思いに答え、患者さんが良質な医療を受けられるように認められている権利です。ただし、セカンドオピニオンは、絶対に受けなければならないものではなく、メリット・デメリットを考えて受けるようにしましょう。

なお、転院や担当医を代えること、満足のいく結果がでるまで、さまざまな病院を渡り歩く、ドクターショッピングとは異なります。

どのようなときに、セカンドオピニオンを受けるの？

- ・ほかの治療方法の可能性がないかを聞きたいとき
- ・担当医の診断について、ほかの医師の意見を聞きたいとき
- ・担当医の説明に納得のいかない部分があるとき
- ・担当医の説明について別の角度から検証したいとき
- ・治療方法を選ぶ際のアドバイスが欲しいとき

セカンドオピニオンを受ける際の流れ

1. 担当医からの現在の病状や診断、治療方針などの意見をよく聞いて理解する
2. セカンドオピニオンを受ける医療機関を決める
3. 担当医にセカンドオピニオンを受けることを伝え、紹介状、検査結果のデータを用意してもらう（資料作成に時間が少しかかります。紹介状作成は保険診療です）
4. セカンドオピニオンを受ける
5. 担当医に、セカンドオピニオンを受けた医師から受け取った書類を渡して結果を伝え、相談する
6. 治療する医療機関や治療方針を決め、担当医に自分の出した結論を伝える

セカンドオピニオンのメリット・デメリット

セカンドオピニオンを受けるメリットは、担当医とは異なる治療方針が示された場合に、選択肢が広がることです。ただし、専門的ながん医療の提供を行う、がん診療連携拠点病院では、現在の最良の医療とされる標準治療を取り入れているため、診断結果や治療方針が、大きく異なることは少ないと思います。

選択肢が広がらなくても、同じ結論であることで納得できたり、説明方法の違いによって理解しやすくなることもあります。このように、病気や治療への理解が深まることで、治療に専念しやすくなることもセカンドオピニオンのメリットといえます。

セカンドオピニオンのデメリットは、公的医療保険制度が適用されない自由診療扱い（全額自己負担）でお金がかかることがまず挙げられます。施設によって料金は様々です。また、基本的には、セカンドオピニオンは治療方針をご自身が決断するために受診するので、治療開始はセカンドオピニオンを聞いた後に、担当医と相談して治療方針を決めてからになります。そのため、セカンドオピニオンを受けることによって、治療までに時間がかかります。病気の種類や進行状況によっては、迷っているあいだに病状が進行してしまうことも考えられますので、セカンドオピニオンの利用は担当医に現在の病状と治療の必要性について確認するところから始めてください。

*もし、手術日を決めてから、セカンドオピニオンを受けることを希望された場合は、手術予定は延期になることが原則です。ただし、手術予定日程に余裕があれば、科によっては、キャンセル待ち手術対応が可能な時期まで、お待ちすることが可能な場合もありますので、いつまでに返事をすれば良いかなど担当医にお尋ねください。

その他関連して知っておきたいこと

インターネットや書籍などの医療情報について

インターネットや書籍などには、信頼できる医療情報もある一方で、効果が科学的に証明されていない自由診療で行われる治療に関する情報もあるため、慎重な確認が必要です。数ある情報に迷ったときには、ひとりで悩まず担当医やがん相談支援センターなどにご相談ください。

また、インターネットを見る場合は、厚労省や国立がん研究センターなどの公的サイトの閲覧をお勧めします。